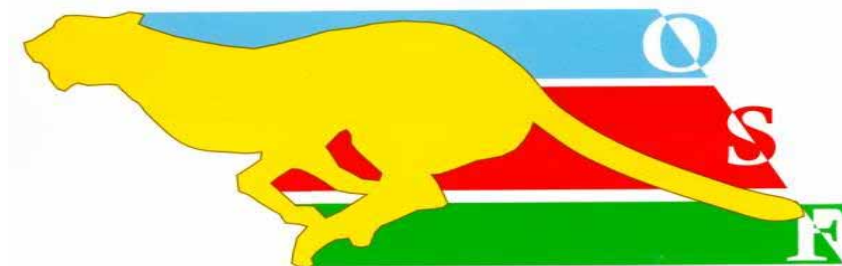


証券のための金融、証券による金融

大証金ファクト・ブック



平成16年5月11日、12日(大阪、東京)

大阪証券金融株式会社

<http://www.osf.co.jp/>

目 次



1. はじめに

(1) 会社の特色.....	1
(2) 信用取引と貸借取引.....	2
(3) 一般信用取引の開始.....	6

2. 平成15年度連結決算の概要

(1) グループの概要.....	7
(2) 決算の推移（連結、単体）.....	8
(3) 関係会社の決算状況.....	9

3. 当社の収益動向

(1) 平成15年度決算の特徴.....	10
(2) 主要勘定の推移等	
資金運用残高、利鞘収入.....	12
利回り、利鞘.....	13
資金運用残高の内訳.....	14
証券レポ残高の内訳.....	15
主要資産別運用収益.....	16
資金調達残高の内訳.....	17

有価証券貸付料の内訳.....	18
一般管理費の内訳.....	19

4. 経営指標の状況

(1) 健全性チェックリスト.....	20
(2) 収益性関連指標の推移.....	21

5. 今後の取組み

(1) 中期経営計画の実現.....	22
(2) 企業体質の強化.....	24
(3) 収益力向上のための4つのエンジン.....	25
(4) 平成16年度の見通し.....	26



1 . はじめに

(1) 会社の特色

- 〔役割〕 ○ **証券取引法の免許を受けた会社で制度金融（貸借取引）の担い手**
- **証券関連融資や証券貸借を通して証券市場の機能発揮をバックアップ**

- 〔概要〕 ○ **東京（第1部）、大阪（第1部）の各証券取引所に上場**
- **資本金35億円、株主資本244億円で、自己資本比率は高水準**
- **役職員全体で約100名の少数精鋭**

- 〔実績〕 ○ **経常利益は、創立以来50年余黒字を継続**
- **配当金は、平成2年以来、年6円を継続**
- **格付は上位**

長期債格付けは **A** - [R & I（格付投資情報センター）]

短期債格付けも **a・1** [R & I]、**J・1** [JCR（日本格付研究所）]

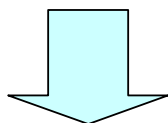
（単体ベース）



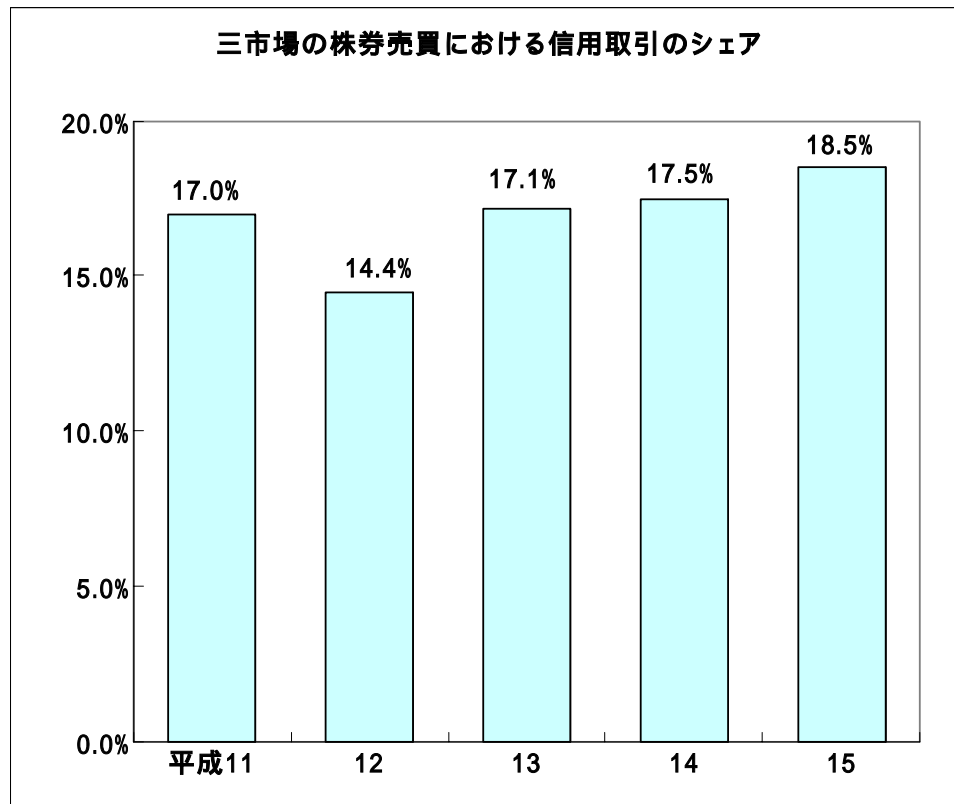
(2) 信用取引と貸借取引

信用取引の特徴

- ・レバレッジ（通常30の資金で
100の投資が可能）
- ・「買い」だけでなく「売り」もできる。



流動性の向上に貢献



(注) 月間売買代金ベース、暦年

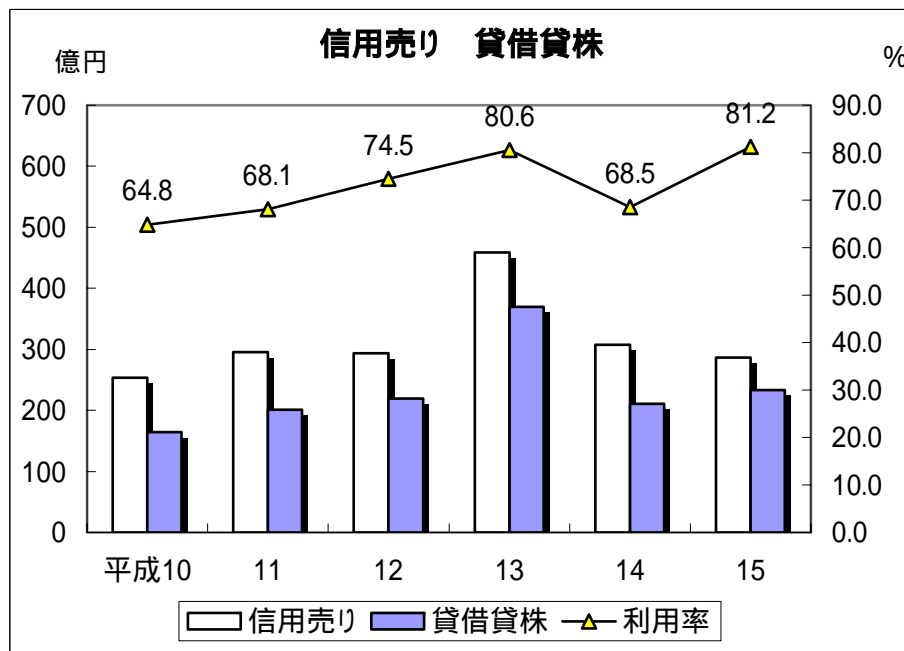
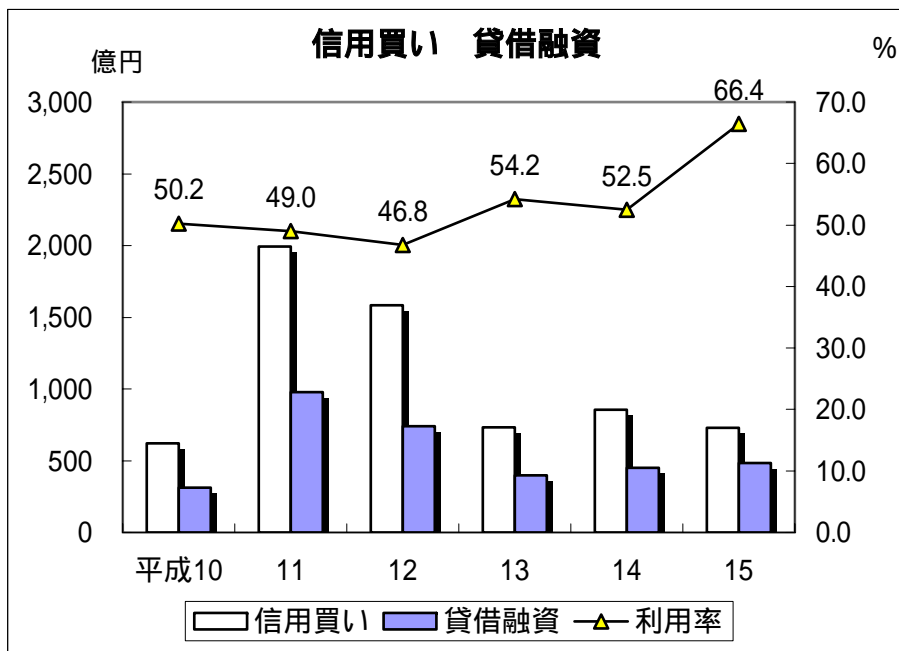
「制度信用取引」をバックアップする貸借取引



制度信用銘柄のうち一定の条件(流動性、株式数等)を満たした銘柄 「貸借銘柄」

大阪市場では、制度信用取引の「買い」については「50～60%以上」を「貸借取引」でバックアップ
「売り」については「80%以上」

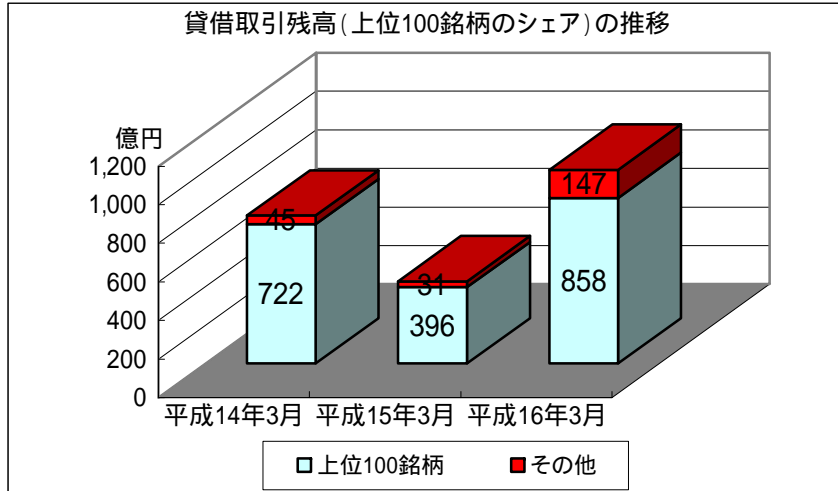
制度信用取引における貸借取引の利用状況(大阪市場)



(注) 年度ベース、平残ベース



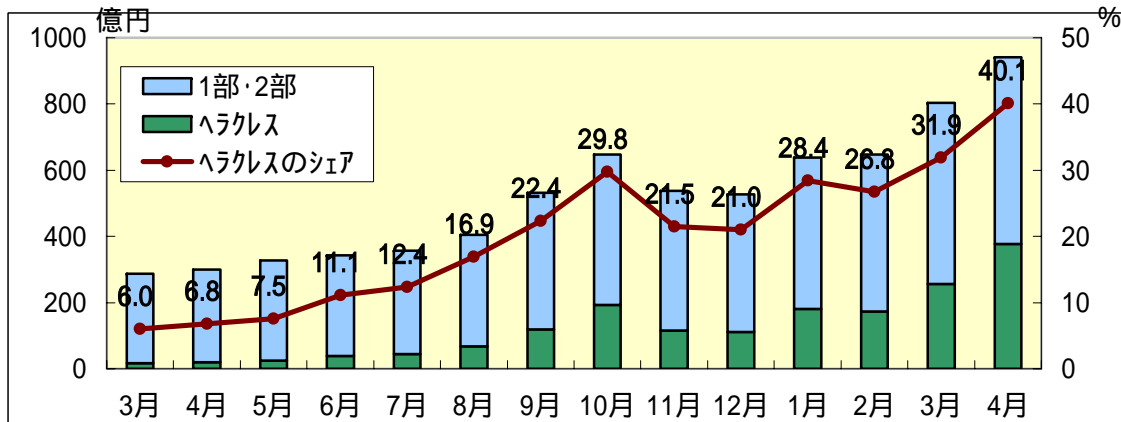
大阪市場のコア銘柄...全貸借取扱銘柄(1,105銘柄)のうち、約1割で貸借取引残高の約9割をカバー



	14年3月		15年3月		16年3月	
	貸借取引残高 億円	シェア %	貸借取引残高 億円	シェア %	貸借取引残高 億円	シェア %
上位100銘柄	722	94.1	396	92.7	858	85.4
その他	45	5.9	31	7.3	147	14.6
全体	767	100.0	427	100.0	1,005	100.0
貸借取扱銘柄数	1,315銘柄		1,235銘柄		1,105銘柄	

(注) 各月末現在。貸借取引残高は融資残高と貸株残高の合計。

貸借取引融資残高におけるヘラクレス銘柄のシェアがアップ



各月末における貸借取引融資残高



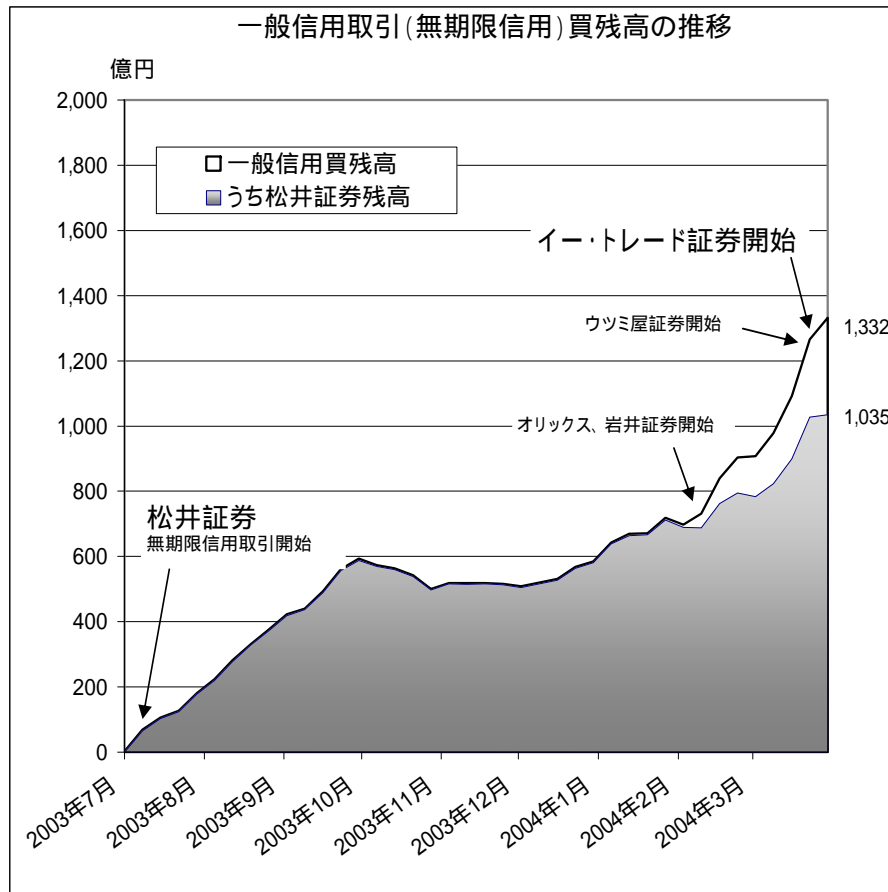
貸借銘柄の積極的な選定

(平成16年4月末)

	上場銘柄数	内 制度信用銘柄		貸借融資残高 (百万円)	貸借貸株残高 (百万円)	
			内 貸借銘柄			
			内 貸借銘柄			内 貸借融資銘柄
ヘラクレス	103	102	17	37,781	630	
マザーズ	87	14	5	11,580	119	
ジャスダック	927	126	43	12,127	168	



(3) 一般信用取引(無期限信用)の開始



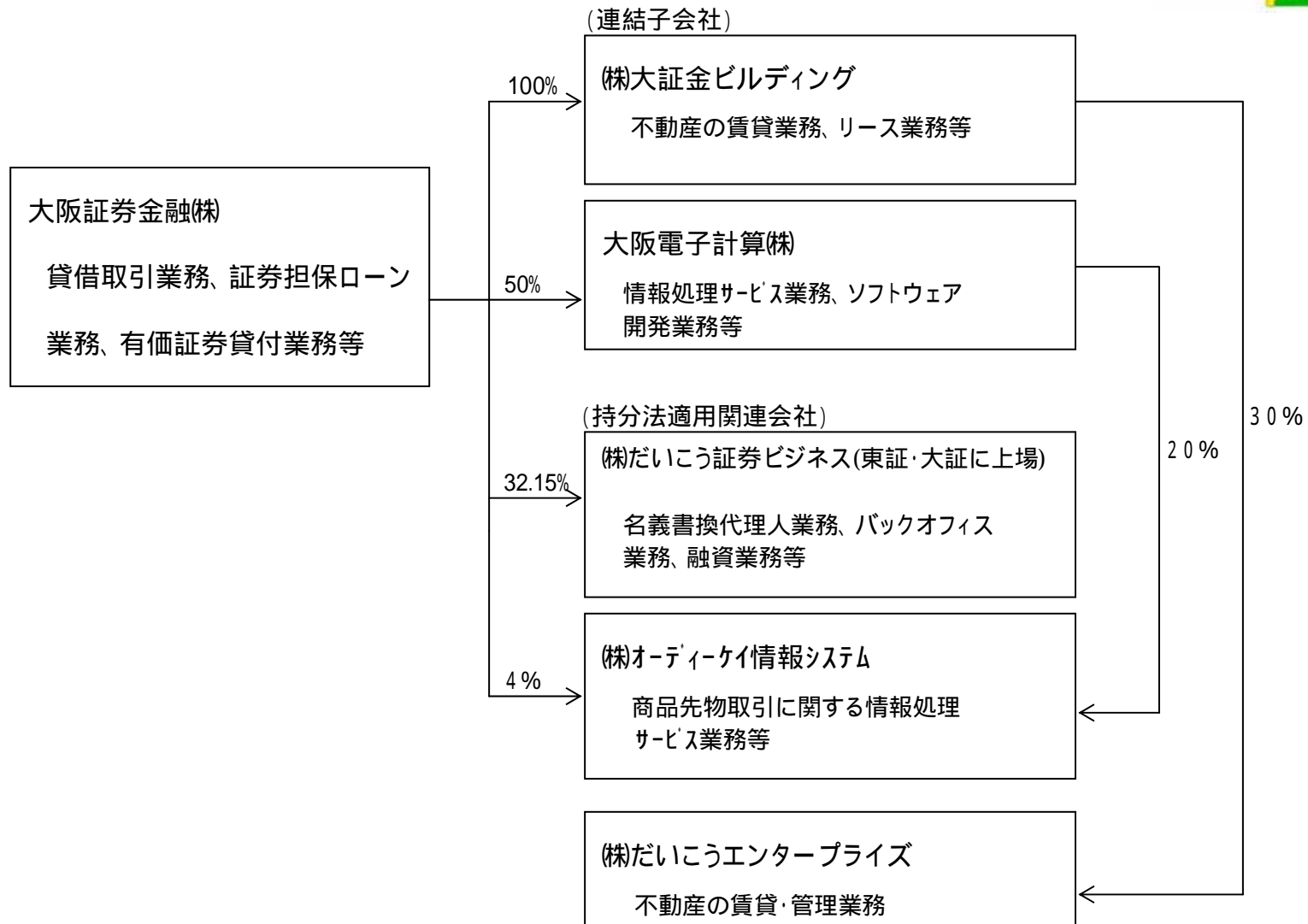
2003年7月 松井証券が開始

2004年3月 オリックス証券参入
岩井証券参入

4月 ウツミ屋証券参入
イー・トレード証券参入
(当社の信用サポートローン利用)

2. 平成15年度連結決算の概要

(1) グループの概要





(2) 決算の推移(連結、単体) - 連結、単体とも経常増益

(単位:百万円)

年 度	連 結			単 体		
	営業収益	経常利益	当期純利益	営業収益	経常利益	当期純利益
平成 11	9,263	917	482	4,671	1,026	580
12	8,888	183	347	4,020	286	307
13	9,837	83	14	4,813	138	150
14	6,255	472	527	3,623	479	547
15	7,021	967	586	3,575	649	633

(注) 1. 金額は単位未満切捨て



(3) 関係会社の決算状況

(単位：百万円)

年 度	連 結 子 会 社						持 分 法 適 用 関 連 会 社								
	㈱大証金ビルディング			大阪電子計算㈱			㈱だいこう証券ビジネス			㈱オーディーケイ情報システム			㈱だいこうエンタープライズ		
	営業収益	経常利益	当期利益	営業収益	経常利益	当期利益	営業収益	経常利益	当期利益	営業収益	経常利益	当期利益	営業収益	経常利益	当期利益
平成 11	655	87	48	3,036	33	11	9,253	1,185	634	1,889	205	205	316	41	24
12	754	59	32	3,041	21	20	10,042	1,642	762	2,298	392	397	318	54	31
13	741	102	59	3,314	333	183	10,520	1,156	191	2,033	568	568	315	41	24
14	736	94	89	2,622	129	49	9,854	665	225	2,390	472	473	286	27	16
15	715	189	127	3,606	302	60	10,139	1,024	206	2,070	417	990	248	6	4

- (注) 1. ㈱オーディーケイ情報システムは平成10年7月設立、平成13年度に連結子会社から持分法適用関連会社に移行
 2. ㈱だいこうエンタープライズは平成13年度より持分法適用



(単位:百万円)

3. 当社の収益動向

(1) 平成15年度決算の特徴

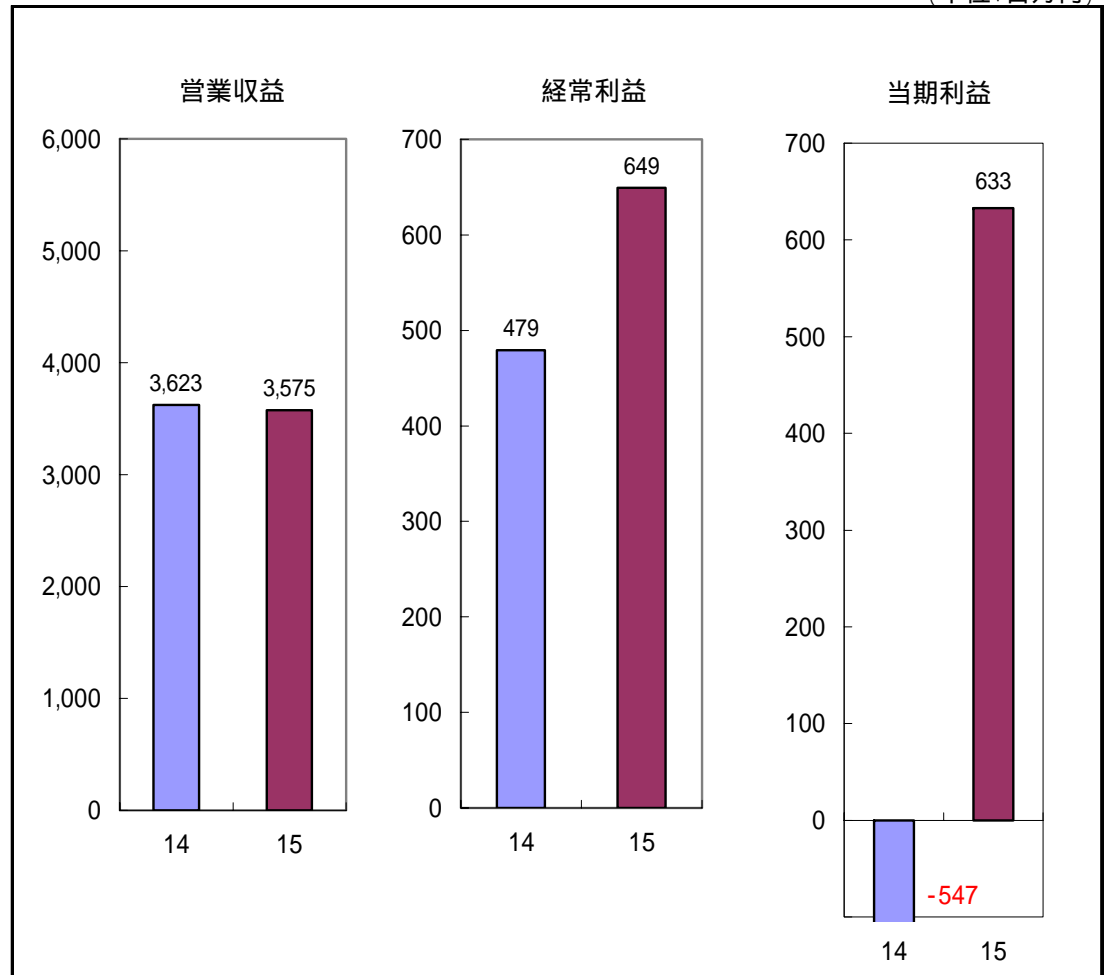
営業収益は微減

経常利益は増益

- ・ 利鞘収入の増収
- ・ 一般管理費の減少

当期純利益は大幅黒字転換

- ・ 投資有価証券評価損の解消
- ・ 貸倒引当金戻入の計上



(注) 年度ベース



営業収益の推移

(単位:百万円)

年 度	平成11	12	13	14	15
営業収益	4,671	4,020	4,813	3,623	3,575
うち 資金運用収益	3,336	2,940	2,285	2,703	2,771
うち 有価証券貸付料	1,253	1,050	2,479	876	740

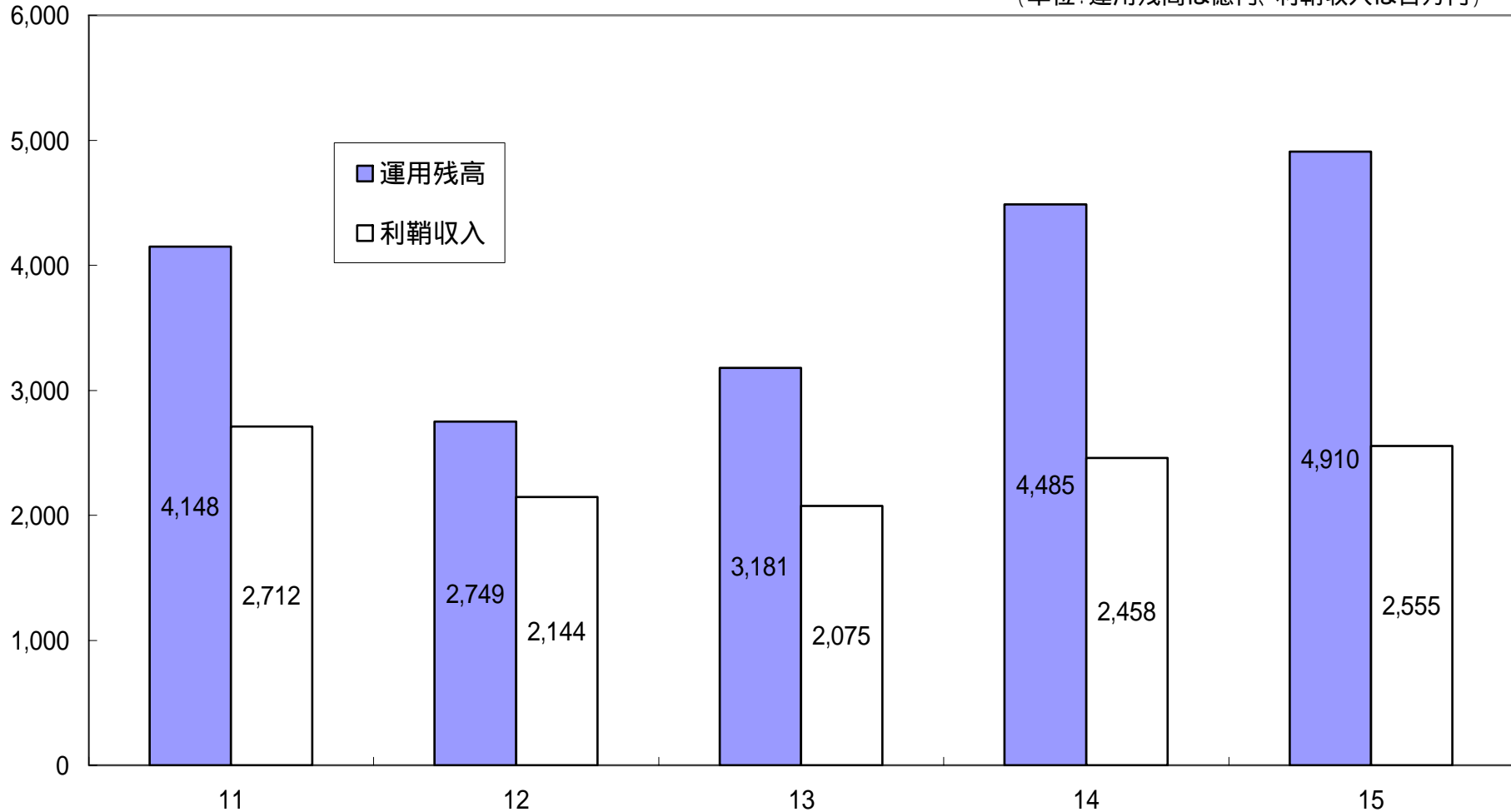
(注)年度ベース



(2) 主要勘定の推移等

資金運用残高、利鞘収入 残高、収入ともに増加

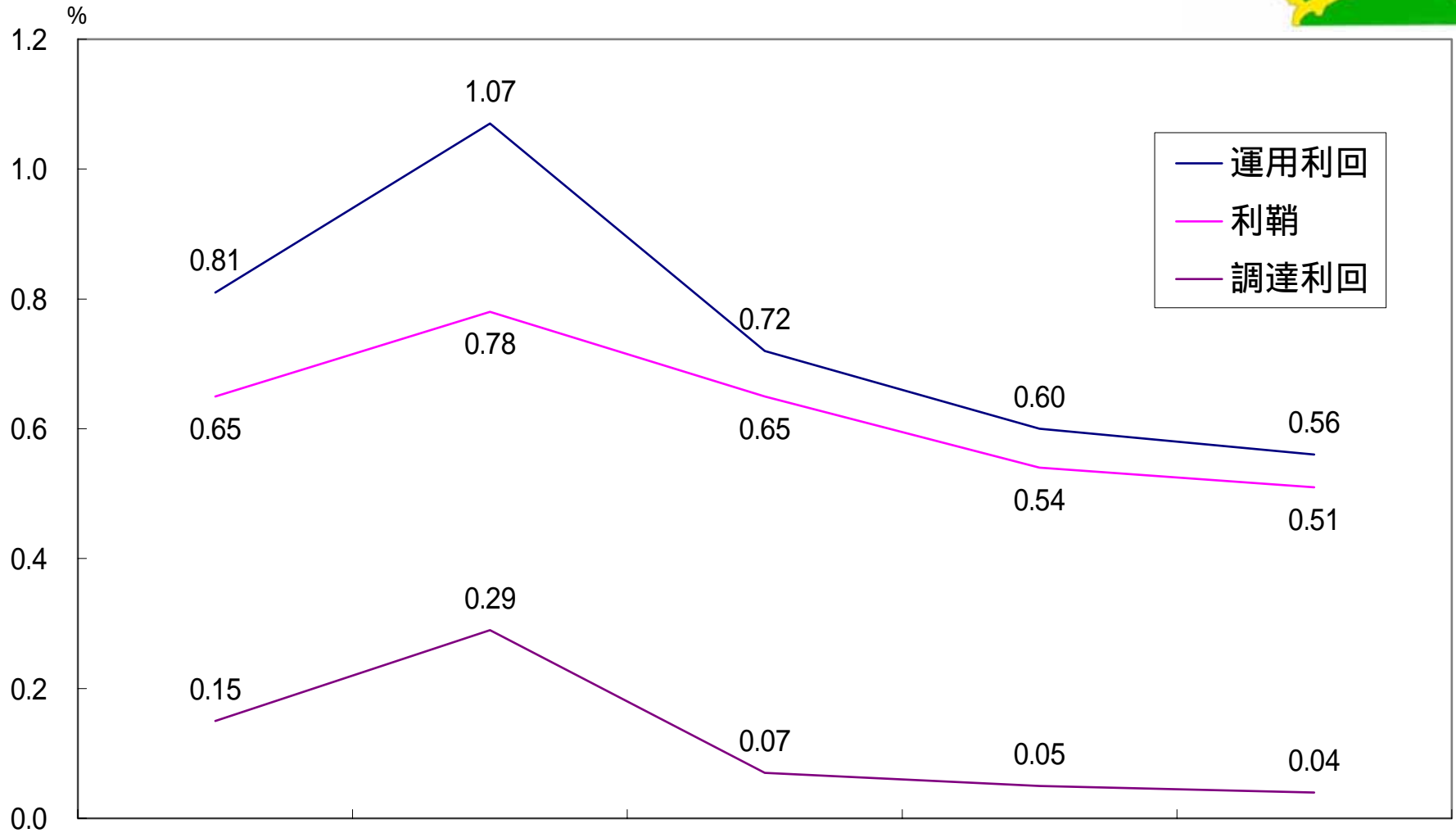
(単位: 運用残高は億円、利鞘収入は百万円)



(注) 年度ベース、平残ベース



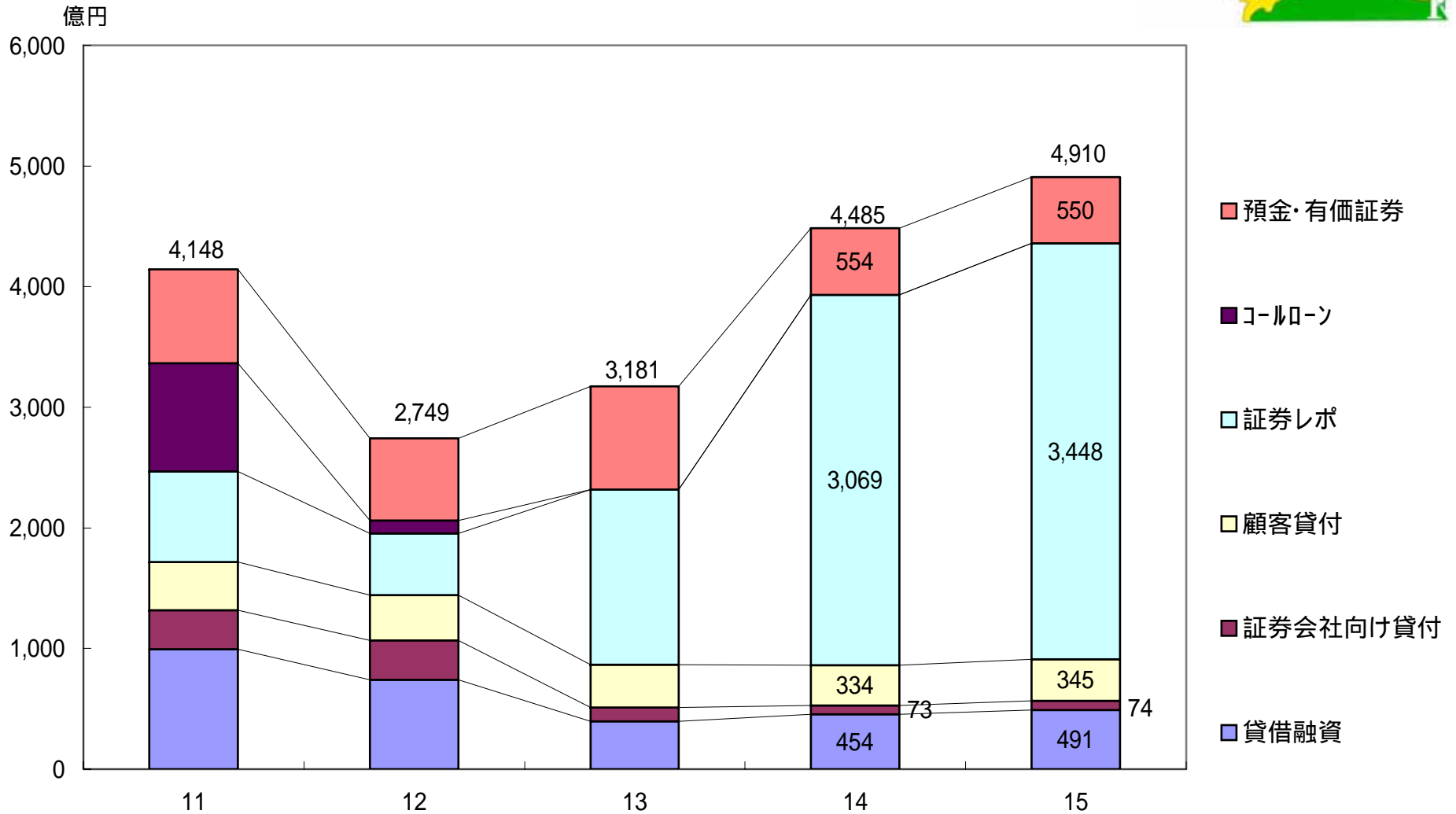
利回り、利鞘 - 低金利下、利鞘は縮小



(注) 年度ベース¹¹



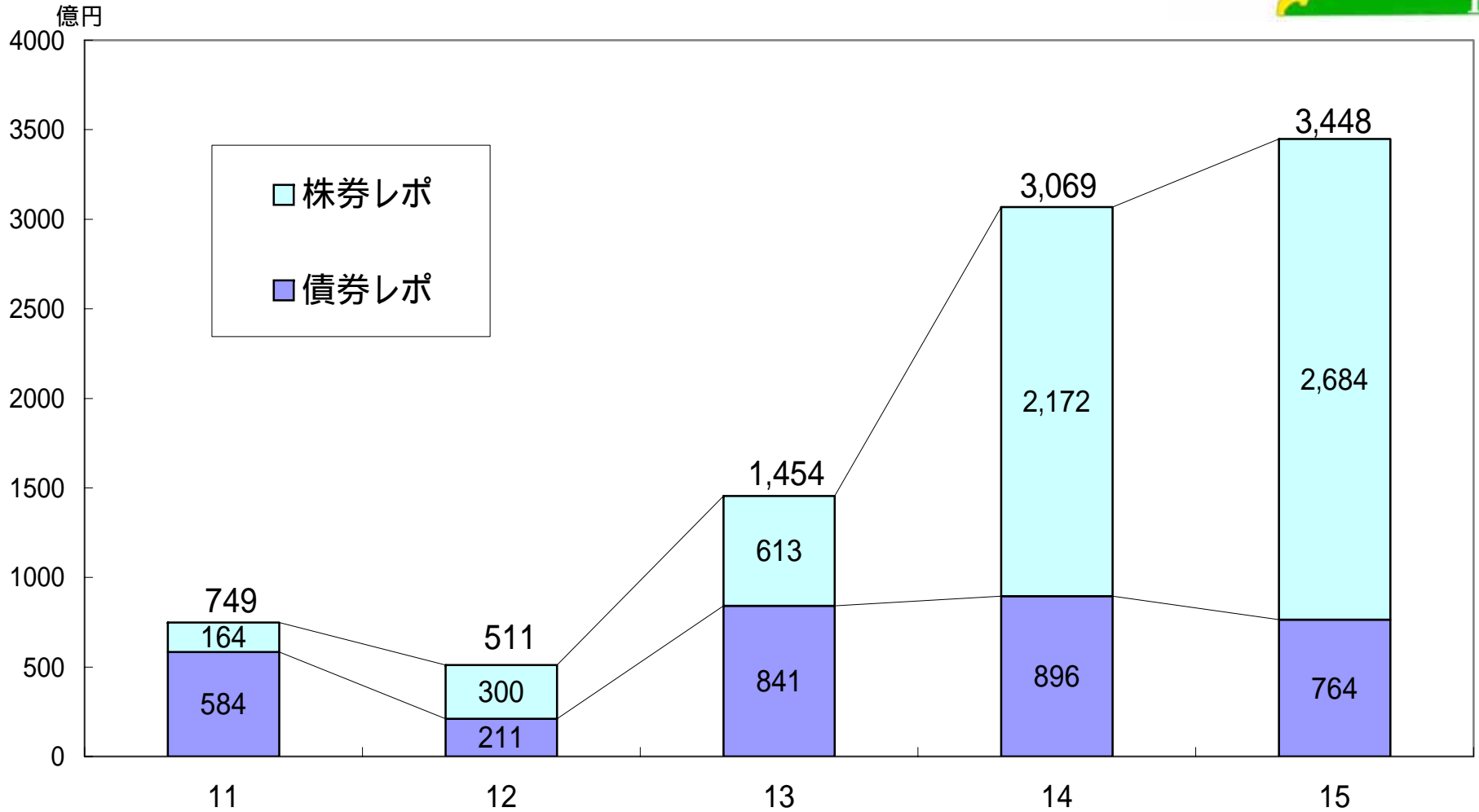
資金運用残高の内訳 - レポ運用の増加顕著



(注) 年度ベース、平残ベース



証券レポ残高の内訳 - 株券レポのシェア拡大



(注) 年度ベース、平残ベース



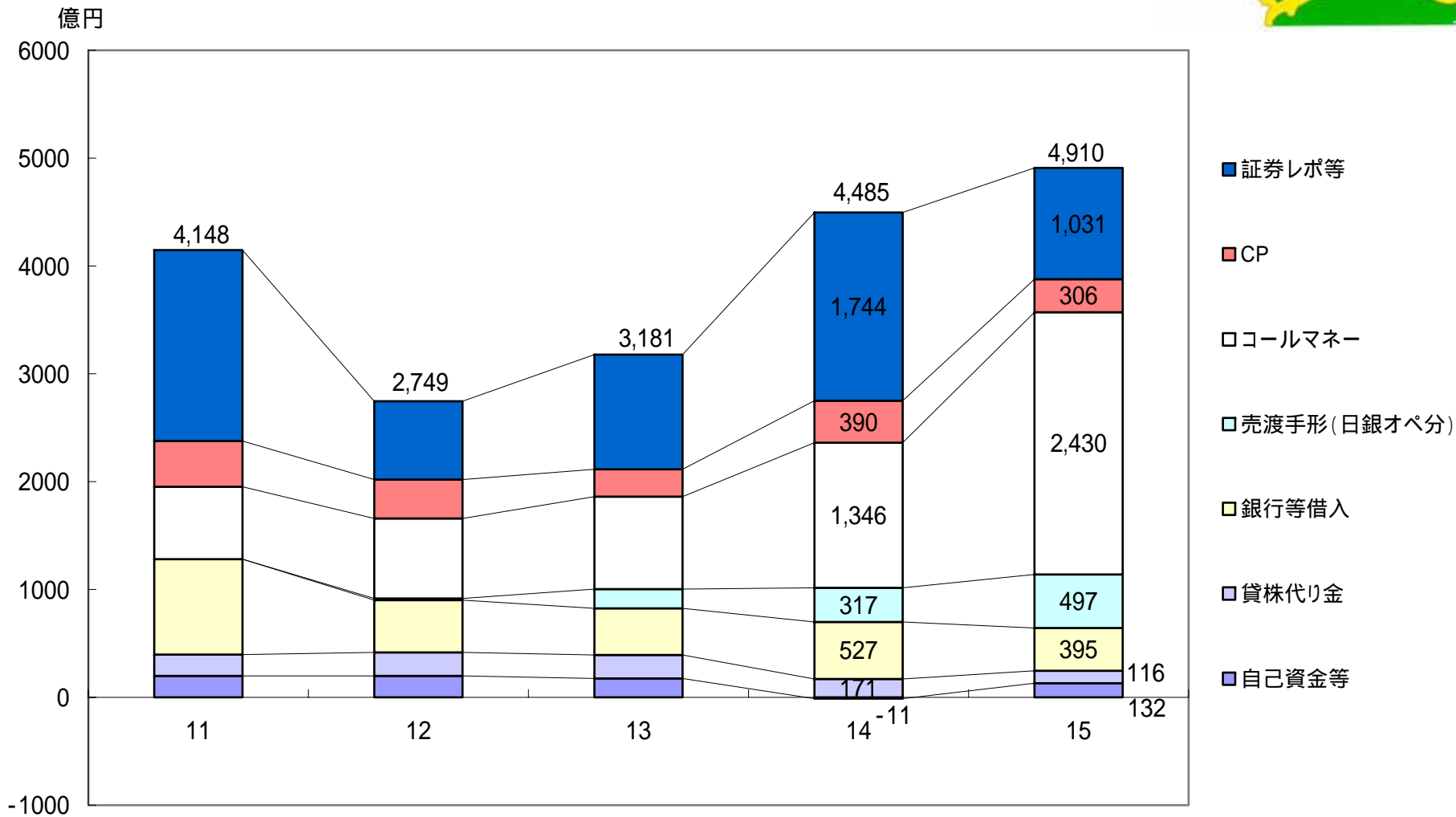
主要資産別運用収益 顧客貸付、証券レポで8割強

(単位：百万円)

	平成11	12	13	14	15
制度金融等	851	799	350	340	351
（貸借融資）	(714)	(587)	(255)	(277)	(302)
（証券会社向け貸付）	(137)	(212)	(95)	(62)	(48)
顧客貸付	1,384	1,312	1,192	1,135	1,218
証券レポ	353	541	507	1,092	1,107
預金・有価証券	372	259	233	135	94
コールローン	373	26			
合計	3,336	2,940	2,285	2,703	2,771

- (注) 1. 運用収益はグロスベース
2. 年度ベース

資金調達残高の内訳 - 低利のコールマネー取入増



(注) 年度ベース、平残ベース



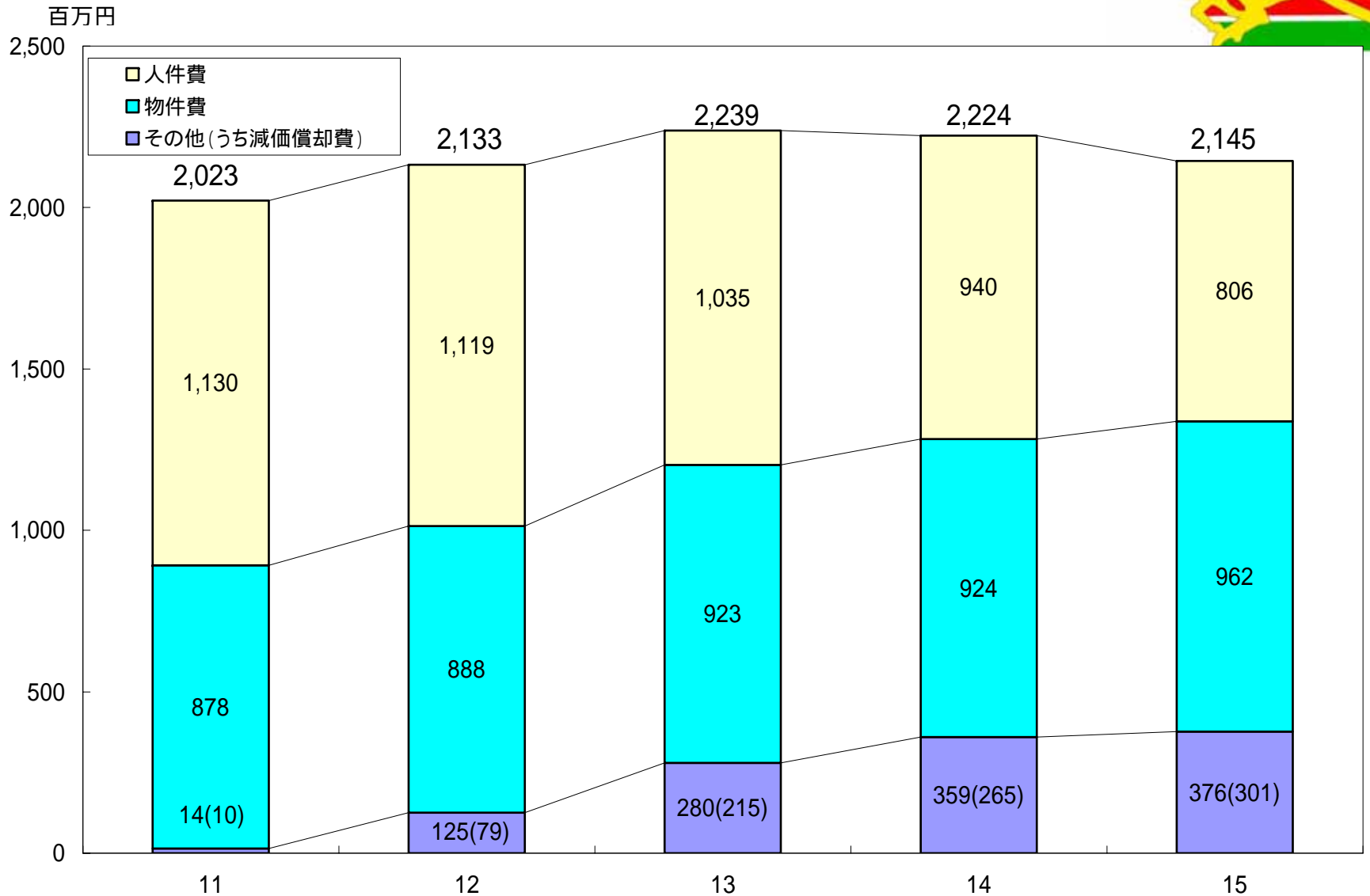
有価証券貸付料の内訳 貸借取引貸株料は増加

(単位：百万円)

年 度	平成 11	12	13	14	15
貸借取引	13	37	127	106	124
(グロスベース)	(340)	(656)	(1,962)	(446)	(360)
(うち貸借取引貸株料)	()	()	()	(73)	(97)
一般貸株	152	107	119	52	73
債券貸借	103	32	58	56	47
合 計	269	177	305	214	244

(注) ネットベース (貸付料 借入料)

一般管理費の内訳 人件費減少、物件費、減価償却費増加





4. 経営指標の状況

(1) 健全性チェックリストー高い健全性

(平成16年3月末)

<p>格付</p> <p>短期債 a・1 [格付投資情報センター(R&I)]</p> <p>J・1 [日本格付研究所(JCR)]</p> <p>長期債 A - [格付投資情報センター(R&I)]</p>	
<p>自己資本比率</p> <p>(1) 銀行ベース(BIS基準) = 12.72%</p> <p>(2) 証券会社ベース(証券取引法基準) = 1,102.1%</p>	<p><参考></p> <p>国際統一基準行単体ベース平均 11.4% (平成15年9月末現在)</p> <p>国内基準行単体ベース平均 8.7% (平成15年9月末現在)</p> <p><参考></p> <p>東証取引参加資格証券会社(108社)平均 541.3% (平成15年12月末現在)</p>
<p>貸出不良債権</p> <p>実質破綻債権、破綻懸念債権、要注意債権合計 3.2億円</p> <p>貸付金総額1,234.8億円に対する割合 0.3%</p>	<p><参考></p> <p>全国銀行(129行)平均 4.0% (平成15年9月末現在)</p> <p>金融庁が発表したリスク管理債権総額のうち破綻先債権と延滞債権の合計を貸付金総額で除して算出</p>



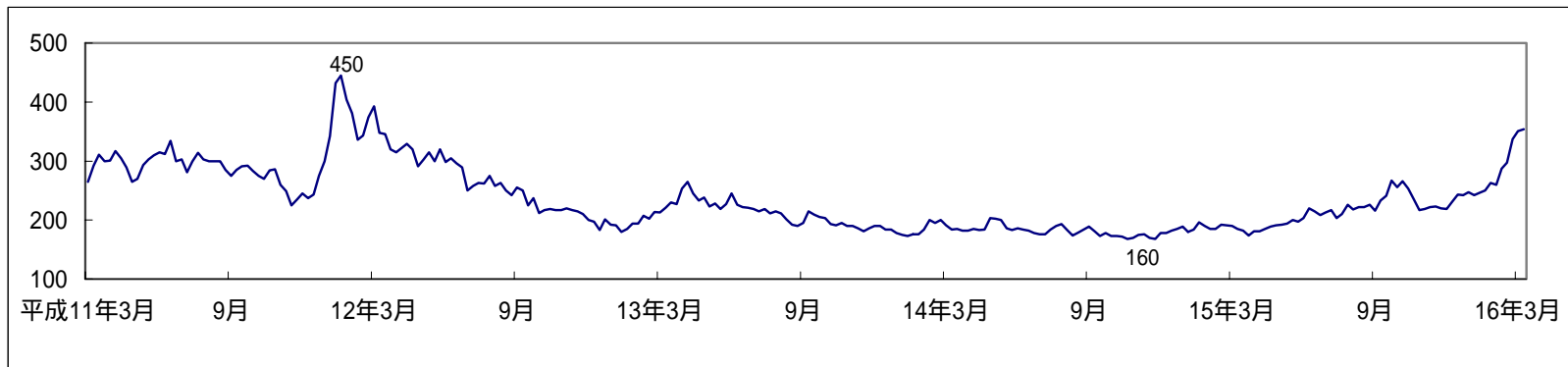
(2) 収益性関連指標の推移 収益性向上が課題

年 度	平成 11	12	13	14	15
株主資本利益率 (ROE)	(1.5) % 2.4	(1.1) 1.3	(0.0) 0.6	(1.7) 2.3	(1.8) 2.6
株価収益率 (PER)	(32.6) 倍 27.1	(24.4) 27.7	() 50.7	()	(25.5) 23.3
株価純資産倍率 (PBR)	(0.49) 倍 0.64	(0.26) 0.34	(0.23) 0.31	(0.22) 0.31	(0.42) 0.56
1株当たり配当	8.00 円	6.00	6.00	6.00	6.00

(注) () は連結ベース

参考：当社株価推移

(単位：円)





5 . 今後の取組み

(1) 中期経営計画の実現

基本認識

使 命	「証券のための金融、証券による金融」を担い証券市場の発展に貢献する
目 標	ステークホルダーズの次のような期待に応える 株 主：高い収益性の実現 お客様：ニーズへの対応、サービスの向上 従業員：「やる気」に応える職場の提供
行動指針	「ゼロからのスタート」の精神で、「ニーズ！スピード！チャレンジ！」を実践する



経営目標と利益計画

収益性	経常利益	平成 16 年度は 11 億円、平成 18 年度には 17 億円
	ROE	4 % 以上達成 (平成 19 年 3 月期)
	配当	年 6 円配当の維持、引上げ
健全性	自己資本比率	B I S 基準、証取法基準ともに高水準を維持
	格付	格付け向上を目指す

(単位：億円)

	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度
営業収益	4 2	4 5	4 8
経常利益	1 1	1 4	1 7
当期純利益	7	8	1 0



(2) 企業体質の強化 イメージは『ヒョウ』

「ニーズ!スピード!チャレンジ!」の実践

We are NO.2, so we try harder!

業界初のネット取引開始

一般信用取引対応の「信用サポートローン」開始

成果重視型の人事・給与制度導入

社会貢献活動への取組み着手

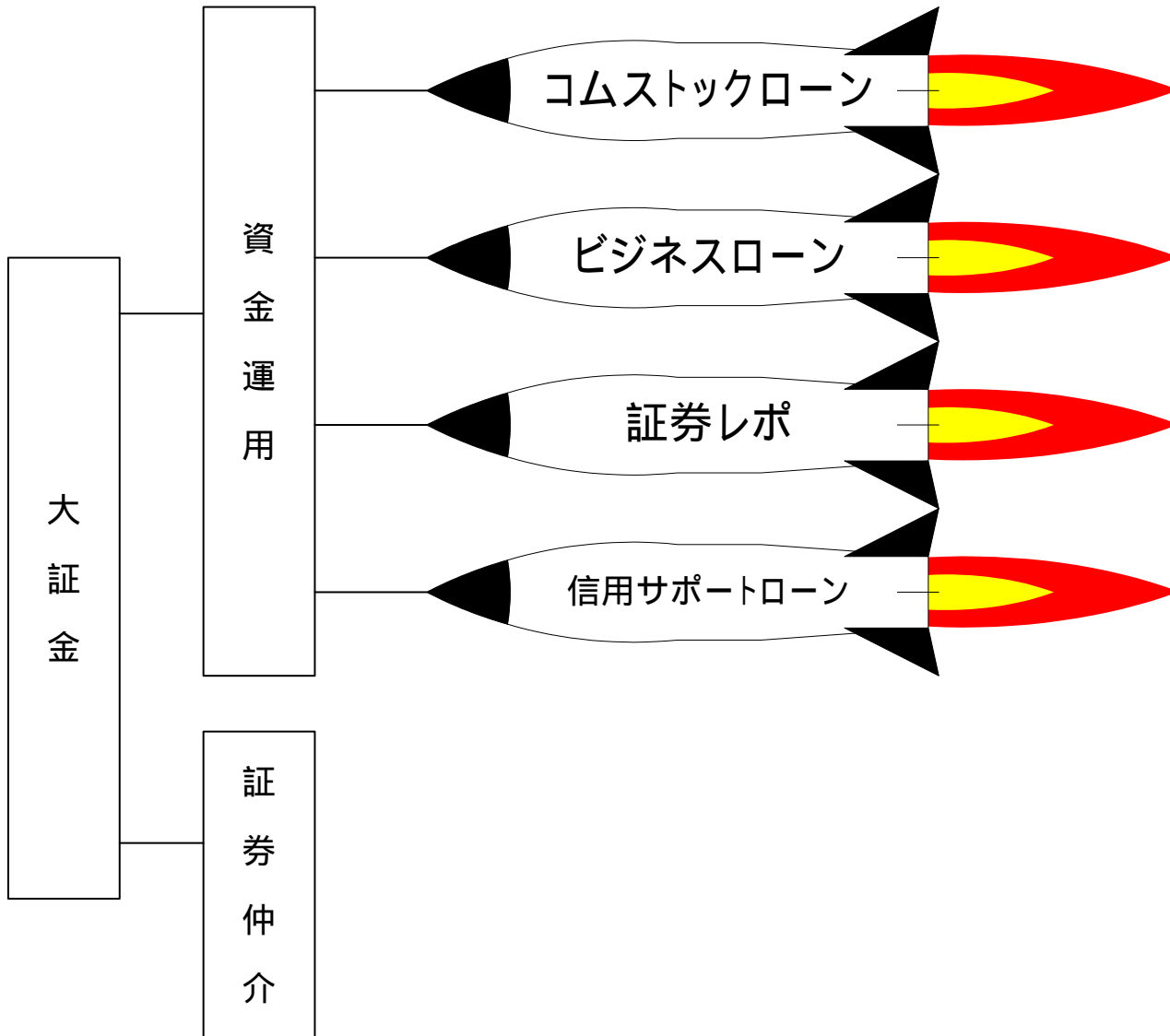
外気に積極的にあたる デイスクロージャーの推進

決算発表の早期化、四半期連結決算の発表

経営計画(当年度および3ヵ年度)の公表

年二回東京、大阪で会社説明会を開催

(3) 収益力向上のための4つのエンジン





(4) 平成 1 6 年度の見通し

(単位 : 百万円)

	連 結		単 体	
	平成 1 5 年度実績	平成 1 6 年度見通し	平成 1 5 年度実績	平成 1 6 年度見通し
営業収益	7,021	6,800	3,575	4,200
経常利益	967	1,600	649	1,100
当期純利益	586	900	633	700